

織研新聞

SENKEN

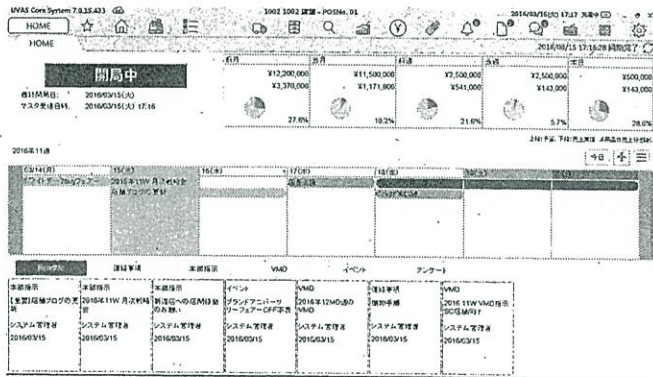
2016年
(平成28年)

3月31日
木曜日

織研新聞社

オンラインパスシステムズ

オンラインパスシステムズは、店舗スタッフに焦点を当てた支援サービスを強めている。アパレル・ファッション業界向け統合基幹システム「UCS」(ユーバス・コア・システム)では店舗コミュニケーション機能を強化している。店舗システムのトップページを開けば、本部からの指示や週間イベントなどが見やすく表示される。増え続ける様々な連絡・指示を店舗システムに集約し、店舗は「やるべきこと」が分かり安心して本来業務に専念できる。また、販売員向けのeラーニングサービスは利用者が自分のキャリアパスに合わせて学んでいける教育ツールだ。どちらもアパレル店舗で広がっているタブレット端末から利用できる。



店舗コミュニケーションの店舗側画面

コミュニケーション機能強化 教育ツールでeラーニング

は、本日の売り上げ(実績・予算比)、イベントや作業指示など期日を伴う「お知らせ」を作業ステータスを示す色別で表示する業務スケジュール、VMD指示のお知らせ、アンケート指示のお知らせ、全社・事業部で共有すべき文書を表示するドキュメントなどがあり、本部や他店舗との個別のまたは複数でのやり取りを表示する欄もある。やるべきことがすぐ分かるスケジュールや、本部からのフェイス指示に対し店舗が作ったフェイスの画像をアップした報告するVMDが使いやすいと評価が高い。

本部側でも業務指示の別別進捗が一目で分かる。VMDは店舗の画像や質問をシーン終了後に振り返るとき定性的分析の資料として活用すると効果が大きいという。

店舗スタッフのモチベーションを高める教育システムも提供している。教育コンテンツ開発・提供のライトワークスと開発した販売員向けのeラーニングだ。係数・コンピュータアセス教育の汎用コンテンツを提供し、接客・声かけ教育にはこれをカスタマイズし利用できる。教材作成ツールも提供される。独自のコンテンツ開発も受託する。ユーザーはタブレットを使い、自分の計画でアニメ形式で学んでいく。本部側ではどこまで学んだか確認管理できる仕組みもあり、人事システムと連携すれば教育の一元的な管理システムともなる。初期費用は規模、利用コンテンツなどで異なるが、1人1ヵ月数百円の費用で運用できる。